

PPS003-26

会場: 201A

時間: 5月24日16:18-16:30

次期月探査計画SELENE-2科学搭載機器の検討状況(2)

Current status of science instruments onboard SELENE-2(2)

田中 智^{1*}, 飯島祐一¹, 三谷 烈史¹, 大嶽 久志¹, 小川 和律¹, 小林 直樹¹, 木村 淳², 倉本 圭²

Satoshi Tanaka^{1*}, Yuichi Iijima¹, Takefumi Mitani¹, Hisashi Otake¹, Kazunori Ogawa¹,
Naoki Kobayashi¹, Jun Kimura², Kiyoshi Kuramoto²

¹宇宙航空研究開発機構, ²惑星科学研究センター/北海道大学

¹JAXA, ²CPS Hokkaido University

月周回探査機「かぐや」ミッションに続く月探査計画としてJAXAでは月惑星への着陸技術獲得を主目的とした、「SELENE-2」ミッションの検討が進められている。2010年代半ばまでの打ち上げを目指しており、現在フェーズA段階（プリプロジェクト）である。本報告では前年地球惑星連合大会の報告にひきつづきミッションの検討状況と科学搭載機器についての開発現状を報告する。

この一年間での大きな目標の一つであった、正式なミッション化（フェーズB）に向けた審査会の開催は実現することができなかった。これは宇宙基本計画発足後、有人月探査も視野に入れた長期展望を政府レベルで検討することが決定し、その結論を基に月探査ミッションを進めることが決定したためである。政府レベルでの検討は2010年6月までには結論が出される見通しである。

しかしながら、ミッション化にむけた準備は着実に進めている。主な進展として特筆すべきことは科学搭載機器として11の搭載機器をモデルペイロードと暫定的に選定したこと、SELENE-2およびモデル搭載機器候補によるサイエンスの妥当性についての本格的なレビューを開始したこと、搭載機器の技術開発として最大の問題点とも言える月面温度環境に対する熱設計検討が進められたことなどが挙げられる。現在、搭載機器に求められる設計のガイドラインを完成させ、次のステップにむけた検討が各搭載機器チームによって進められている。また、これとは独立に長期科学観測に不可欠な越夜システムの開発、そして月着陸地点の選定検討も開始している。

キーワード: 月, 着陸探査

Keywords: Moon, landing mission